

島村耳鼻咽喉科



【医療機関の先生方・市民のみなさまへ】

久住町の出身です。1999年7月に6年間の南海病院勤務を経て現在の島の島に耳鼻咽喉科医院を開業し、今年で25周年を迎えました。開院4年目に林原、増村両医院が閉院したため、以後市内唯一の耳鼻咽喉科医院です。

25年間ほぼ休診なく診療を継続し、お陰様で6万人超の患者さんが来院してくださりました。のべ60万人以上の方を会話しつつ診察し、耳・鼻・のどの疾患はもとより甲状腺疾患や食道異物、めまいを治療して参りました。手術や入院治療が必要な場合は、そのほとんどを南海耳鼻科と連携し治療しております。医師会長を拝命した8年前まで木曜日午後はほぼ毎週手術応援に行き、執刀もさせて頂き感謝しています。今後も趣味の釣りをしつつ、佐伯の地域医療に貢献できれば本望です。



院長からひとこと

親切で的確な医療を心がけています
あいさつ、礼儀を重んじます。
佐伯の地で、一耳鼻咽喉科医を全う
します。



医療法人 島村耳鼻咽喉科
〒876-0843 佐伯市中の島1丁目2-29
TEL 0972-20-3387
診療科/耳鼻咽喉科 院長/島村 康一郎

連携医療機関の紹介

【医療機関の先生方・市民のみなさまへ】

平成21年に開院しました。泌尿器科的疾患全般及び腎機能障害・腎不全の治療を行っています。泌尿器科と聞くと受診しにくいかもしれませんが、おしっこに関して気なることがある、尿検査で異常を指摘された、などの時には悩まずに受診してください。診察して治療可能なら当院で、より上位の病院での検査、治療が必要であれば南海医療センター等への紹介を行います。

血液透析も行っています。小規模な施設ですが透析機器、水処理システムに関しては可能な限り新しいものを導入し患者さんの生活をよりよくするように努力しています。

つつみ泌尿器科医院



院長からひとこと

佐伯市では唯一の泌尿器科クリニックです。女性医師の診察日もあります。不安なことがあれば恥ずかしくらずに受診してください。



つつみ泌尿器科医院
〒876-0847 佐伯市城西町1-12
TEL 0972-20-3232
診療科/泌尿器科 院長/堤 智昭

地域と医療をつなげる架け橋

第10回

JCHO 南海医療センター地域医療連携会議

令和6年6月27日(木)に第10回 JCHO南海医療センター地域医療連携会議を開催しました。

地域の医療従事者の方々と顔の見える関係性の構築を目的でスタートとした本会議も当院が独立行政法人 地域医療機能推進機構となって10回目を数えるまでとなりました。

過去、コロナ感染症の影響でリモート開催することもございましたが、コロナ感染症も第5類感染症となり、今年是对面で行いました。

当院から耳鼻咽喉科部長 高倉苑佳医師、血液内科部長 春山誉実医師、梅田祐次臨床検査技師長より当院で可能な医療に関するご講演をいただき、コメンテーターの御手洗病院 御手洗義信院長をはじめ佐伯市医師会長の島村耳鼻咽喉科 島村康一郎院長等多くの先生方からご意見やご感想をいただき、非常に有意義な会議になりました。

また、佐伯市歯科医師会、佐伯市薬剤師会、南部保健所の皆様にもご参加いただき、盛大に会を終えられたことをこの場をお借りして感謝申し上げます。

日頃より皆様との連携を強化させていただくことで、佐伯市の益々の医療の発展につながることを期待し、当院もその一助になれるよう今後とも精進して参ります。



contents

- P1 地域医療連携会議
- P2 診療科の紹介 循環器内科
- P3 能登半島地震における透析業務支援の活動報告
- P4 連携医療機関の紹介
島村耳鼻咽喉科 つつみ泌尿器科医院



令和6年度

JCHO南海医療センター
地域医療連携会議

2024.8
vol.25



〒876-0857 大分県佐伯市常盤西町7-8

南海医療センター

https://nankai.jcho.go.jp/
TEL 0972-22-0547(代表)
FAX 0972-23-4083



診療科 の 紹介

循環器内科

部長 丸尾 啓一郎 医師

昨年8月より南海医療センターの循環器内科に着任させていただきました。

当院の循環器内科は現在棚澤、久保田と私の合計3人体制となっております。佐伯市および近隣地区の循環器疾患をできる限り当院で完結できるように努めて参ります。

当科では具体的には緊急も含めました心臓カテーテル検査・治療、下肢閉塞性動脈硬化症、心不全、不整脈をはじめとした循環器疾患の治療を行っております。

まず、心臓カテーテル検査・治療ですが、特に急性冠症候群は時間との勝負となります。そのため、基本的には昼夜問わずに迅速に対応できるような体制としております。また、安定冠動脈疾患に関しましては、薬物療法を基本としFFR(冠血流予備量比)や負荷心筋シンチグラフィ等を用いての虚血評価を行い、適切な患者様へ適切な時期に侵襲的治療を行う様に努めております。

続きまして心不全についてです。心不全パンデミックといわれ久しい状況となっておりますが、佐伯地区におきましても心不全の患者様が非常に多い状況です。特に現在は超高齢の患者様が多く純粋な心臓の機能異常による心不全だけではなく、認知症や誤嚥性肺炎といった併存疾患への対応、独居の患者様などサポートが必要な方への社会的介入なども必要なことが多く、心臓のみでなく、患者様への包括的な対応が必要です。当院では心不全チームによる包括的な治療を行っております。また、病診連携の充実も引き続いて図って行きたいと考えております。具体的には基本的に地域の先生方にかかりつけ医になっていただき、当院は心不全増悪の緊急対応や原因検査を含めた専門治療を行うといった形でサポートさせていただく様な形にらせていただければ幸いです。

地域の患者様のために頑張りますので、病診連携を含めこれからも何卒よろしくお願い申し上げます。



能登半島地震における 透析業務支援

活動報告

2024年1月1日に発生した石川県能登半島地震により被災地区の病院では透析不能の状態に陥りました。透析患者さんは金沢市内などの受け入れ可能な病院で避難透析を行っている状況でした。被災地区の患者さんを受け入れている施設では自施設の患者さんに加えて対応しており、スタッフのマンパワー不足に陥ったため2月より日本災害時透析医療協働支援チーム(JHAT)が透析業務支援に入ることになりました。

わたしは3月末にJHAT隊員として石川県河北郡にある医療法人社団瑞穂会みずほ病院で1週間透析業務支援に入りました。慣れない環境下ではありましたが、現地スタッフより「JHATさんありがとう」の感謝の言葉をいただき乗り切ることができました。

今回の災害派遣で貴重な経験をすることができ、今後当院の災害対策に活かしたいと思います。最後に災害派遣のため勤務変更していただいたスタッフのみなさんありがとうございました。

臨床工学科 小塚みな海
(前列左から2番目)



災害時透析医療協働支援チーム